

公益社団法人 日本コンクリート工学会 東北支部
令和元年度(2019年度)事業報告及び収支決算報告 及び
令和2年度(2020年度)事業計画及び収支予算計画

I 令和元年度(2019年度)事業報告及び収支決算報告

1. 会務運営
2. 委員会活動
 - (1) 研究委員会
 - (2) 表彰委員会
 - (3) 研修委員会
 - (4) 講習会運営委員会
 - (5) ホームページ運用委員会
3. 2019年度収支決算報告
4. 内部監査報告

II 令和2年度(2020年度)事業計画及び収支予算計画

1. 会務運営
2. 委員会活動
 - (1) 研究委員会
 - (2) 表彰委員会
 - (3) 研修委員会
 - (4) 講習会運営委員会
 - (5) ホームページ運用委員会
3. 2020年度収支予算計画

III 補足資料

- ・令和2年度 JCI 東北支部役員名簿
- ・令和2年度 JCI 東北支部専門委員会委員名簿

I 令和元年度(2019年度)事業報告及び収支決算報告

(自：2018年4月1日 至：2019年3月31日)

1. 会務運営

(1) 総会

・2019年5月24日(金) 15:00～17:00 於：ホテルメトロポリタン仙台

(2) 支部幹事会

・2019年5月24日(金) 13:00～14:30 於：ホテルメトロポリタン仙台

・2019年7月17日(金) 15:00～16:20 於：(株)復建技術コンサルタント

・2019年12月9日(月) 15:00～16:20 於：(株)復建技術コンサルタント

(3) 支部役員会

・2019年5月24日(金) 13:00～14:30 於：ホテルメトロポリタン仙台 ※幹事を兼ねる

・2019年7月17日(金) 16:30～17:30 於：(株)復建技術コンサルタント

・2019年12月9日(月) 16:30～17:30 於：(株)復建技術コンサルタント

(4) 研究委員会

・随時電子会議により開催

(5) 表彰委員会

・随時電子会議により開催

(6) 研修委員会

・随時電子会議により開催

(7) 講習会運営委員会

・随時電子会議により開催

(8) ホームページ運用委員会

・随時電子会議により開催

2. 委員会活動

(1) 研究委員会

会告およびホームページにおいて、二種専門研究委員会（一般研究課題）および三種専門研究委員会（萌芽的研究課題）を公募していた。2020年1月に新規の研究応募があり、2020年4月からの活動が支部役員会で承認された。研究課題、委員長および活動内容は以下のとおりである。

・新規研究課題

1) 二種専門研究委員会

「フライアッシュおよびもみ殻灰のコンクリートへの有効利用に関する研究委員会」

活動期間：2020年1月～2022年3月

委員長：徳重英信（秋田大学）

幹事：尾形 裕（東北発電工業），佐藤貴之（日本製紙），高橋良輔（秋田大学）

委員：岩城一郎（日本大学），久田真（東北大学），ほか学術会員，NEXCO 東日本東北支社，ゼネコン，PC 建協東北支部，プレキャストメーカー，生コンメーカー，セメントメーカー，混和剤メーカー，電力，FRC 製造メーカー，行政機関等

※各委員は、幹事・委員による推薦等を行い、必要に応じて委員を適宜追加予定。

研究目的：特に2011年東日本大震災以降、東北地方を含めた各地域で利活用拡大がなされてきている石炭灰フライアッシュの施工実績や利用方法に関する調査を行い、現段階で認識されている技術的課題の整理を行い、今後の一層の利用拡大のための解決策の提言を行う。

2) 二種専門研究委員会

「表層品質評価委員会」

活動期間：2020年1月～2022年3月

委員長：武田三弘（東北学院大学）

幹事：迫井裕樹（八戸工業大学），菅野秀人（秋田県立大学），大友鉄平（早川ゴム）

委員：阿波 稔（八戸工業大学），石橋 努（復建技術コンサルタント），石山智（秋田県立大学），一戸直人（東北地方整備局），大塚亜希子（秋田県立大学），小島真一郎（仙台コンクリート試験センター），上原子晶久（弘前大学），上西 通（東北地方整備局），子田康弘（日本大学），徳重英信（秋田大学），権代由範（仙台高等専門学校），新沼佳苗（建設環境研究所），西脇智哉（東北大学），樋本 智（東日本高速道路），皆川 浩（東北大学），森田大作（パシフィックコンサルタンツ），渡辺弘子（月の泉技術士事務所）

研究目的：本委員会は、各種非破壊検査（微破壊を含む）によるコンクリート表層測定結果について、その値の意味を整理するとともに、それぞれの測定結果の関係性を求め、その評価結果がコンクリートの品質や耐久性とどのような関係があるのか明らかにすることによって今後の維持管理に役立てることを目的としている。

3) 二種専門研究委員会

「コンクリートの施工の良否が材料劣化に及ぼす影響に関する調査研究委員会」

活動期間：2020年1月～2022年3月

委員長：子田康弘（日本大学）

幹事長：上原子晶久（弘前大学）

委員：石川雅美（東北学院大学），阿波稔（八戸工業大学），小山田哲也（岩手大学），高橋良輔（秋田大学），迫井裕樹（八戸工業大学），齋藤俊克（日本大学），堀川真之（日本大学），飯土井剛（復建技術コンサルタント），佐藤和徳（日本大学研究員），音道薫（上北建設），その他ゼネコン，混和材料メーカー，行政機関等（委員による推薦および支部 HP により公募する）。

研究目的：コンクリート構造物の著しい材料劣化は施工由来の場合が多々あり，東北各地では，コンクリートの品質確保の取り組みが実践されている。しかし，そもそも施工の良否が材料劣化に及ぼす影響を定量的に評価した研究は皆無に近い。本委員会では，解析的アプローチによる影響度の分析，および実例と合わせた評価よりこの種の劣化の議論を行う。

4) 二種専門研究委員会

「東北地方のコンクリート構造物の品質・耐久性確保に関する調査研究委員会（第2期）」

活動期間：2020年4月～2022年3月

委員長：小山田哲也（岩手大学）

幹事：子田康弘（日本大学）、迫井裕樹（八戸工業大学）

委員：阿波稔（八戸工業大学）、権代由範（仙台高等専門学校）、佐藤和徳（日本大学）、高橋良輔（秋田大学）、武田三弘（東北学院大学）、西脇智哉（東北大学）、大手・中堅ゼネコン、PC 建協東北支部、橋建協東北支部、建設コンサルタント、地元施工業者、東北地方整備局他行政機関

研究目的：第1期期間中にまとめた、復興道路・復興支援道路において取り組まれた品質・耐久性確保に関するアンケートと施工の創意工夫に関するアーカイブを継続して収集する。また実施に伴う試験研究についても取りまとめる。

(2) 表彰委員会

1) 支部賞募集および応募

会誌「コンクリート工学」10月号・11月号の会告および支部ホームページを通して東北支部論文賞、東北支部技術賞、東北支部奨励賞、東北支部作品賞の各賞の募集を行ったところ、論文賞5件、奨励賞5件、技術賞2件、作品賞1件の応募があった。

2) 審査結果

各支部賞の応募について表彰委員会の委員が分担して査読を行った。その査読をもとに、論文賞1件、奨励賞2件、技術賞2件、作品賞1件がそれぞれの賞に相応しいとする審査結果を幹事会・役員会に提出した。この内容を2020年3月18日の幹事会・役員会において審議する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に対する対応として中止となったため、支部幹事会・役員会でメール審議を行った。メール審議の結果、表彰委員会より提示した受賞対象者が承認された。

3) 受賞対象の概要

論文賞 (5件応募中1件受賞)

題目：大気中環境下における塩化物イオンの見掛けの拡散係数の設定に関する一考察

著者：皆川 浩 (みながわ ひろし) (会員番号 0302466) : 東北大学大学院工学研究科土木工学専攻
中村 英佑 (なかむら えいすけ) : 国立研究法人 土木研究所
藤井 隆史 (ふじい たかし) : 岡山大学
綾野 克紀 (あやの かつのり) : 岡山大学

評価：本論文は、実際の環境条件を考慮した暴露試験によって、浸漬試験との塩化物の拡散係数を比較から、両者の差異の原因が含水率であることを指摘し、照査用の塩化物イオンの拡散係数を求めるための環境係数を提案している点は、特に評価できる。また、この提案は、土木学会「高炉スラグ細骨材を用いたプレキャストコンクリート製品の設計・製造・施工指針(案)」の耐久性設計に既に取り組みされており、コンクリート工学の進歩・発展に寄与している。

奨励賞 (5件応募中2件受賞)

題目：コンクリート製壁高欄の塩化物イオンの吸い上げ特性に関する研究 (1位)

著者：岩舘 佑樹 (いわだて ゆうき) (会員番号 1804960) : 東北学院大学

評価：本論文は、道路付帯構造物である壁高欄などの薄壁部材に生じる劣化現象について、帯水した塩水の吸い上げという現象に着目し、吸い上げによる劣化メカニズムや吸い上げ抑制対策に関する検討を行っている。一般的に壁高欄における塩害は、車両走行による飛散塩分に起因するとされているが、吸い上げという現象に注目した着眼点と現象の解明に寄与する成果から、独創性や将来性が認められる。現象の解明に向けた詳細な実験計画は、実施工や維持管理も視野に入れた評価すべきものであり、実際の壁高欄の劣化状況と同様の劣化状況(塩害単独によるスケーリング現象)を室内実験により再現している点も特筆されるべき成果として認められる。

題目：AIR VOID CHARACTERISTICS OF CONCRETE WITH DIFFERENT MIX PROPORTIONS AND EXECUTION ON RC SLAB (2位)

著者：張 萌 (ちゃん めん) (会員番号 1800755) : 八戸工業大学大学院工学研究科博士後期課程

評価：本論文は、高耐久 RC 床版を対象とし、コンクリート中の気泡特性に関して配合条件のみ

ならず、施工過程の影響についても実物大かつ実施工を模擬した模擬床版により検討されている。試験室レベルと実物大レベルの供試体では、種々の測定結果が乖離する場合がある。本論文は、大型の供試体からサンプリングされた試料による評価が加わっていることで結果の信頼性も担保されているものと考えられる。良質な気泡の確保は、耐凍害性の確保において必須であり、東北地方の床版の高耐久化に資する研究である。加えて、硬化コンクリートにおける気泡特性の評価には 200 μm 以下の気泡数の評価が重要であることに言及し、それを定量的に評価している。

技術賞（2 件応募中 2 件受賞）

題目：過酷な積雪寒冷地における RC 床版の品質確保と高耐久化（1 位）

著者：音道 薫（おとみち かおる）（会員番号 0706520）：上北建設株式会社

評価：本論文は凍害リスクの高い地域における初めての RC 床版の施工について、コンクリート配合検討、試験施工、品質確保の P D C A サイクル循環により品質確保と高耐久化に取り組んだものであり、さらに施工の標準フローを作成し他工事の参考例として示した点は、東北地方のコンクリート構造物の品質確保・高耐久化に向けての有用な事例であると判断される。

題目：画像処理に基づく損傷量評価技術の振動実験への適用（2 位）

著者：高橋 典之（たかはし のりゆき）（会員番号 9907649）：東北大学大学院 工学研究科 都市・建築学専攻

評価：RC 構造物の動的なひび割れの進展を、画像相関法によるひずみ進展計測技術および画像処理技術によるひび割れ幅評価技術により可能にしたものである。また、汎用品のアクションカムを使用することにより、簡易にシステムを構築できる可能性も示している。撮影条件など、より具体的に検証すべき課題がまだあると思われるが、今後、構造ヘルスマニタリング／地震損傷モニタリングを画像処理技術により発展させる道筋を示したものとして評価できる。

作品賞（1 件応募中 1 件受賞）

題目：福島ロボットテストフィールド研究棟（1 位）

著者：伊藤潤一郎（いとう じゅんいちろう）（会員番号 1700105）：Arup

評価：本題目は、福島復興のシンボルの 1 つともいえるロボットフィールド研究棟の建設において、立地条件が沿岸部であることへの高い耐久性確保と、ロボット試用のための高い自由度を与える無柱空間を実現したものである。ハイブリッド張弦梁、中庭屋根、立体トラス屋根等の工夫により、上記条件を経済的にも満足させており、RC 技術の進歩と、福島再生への地域貢献との両方を果たしたものと判断される。

功労賞

功労賞候補としての推薦は無かった。

(3) 研修委員会

1) コンクリート診断技術研鑽のための勉強会

第15回『コンクリート診断技術研鑽のための勉強会』の実施概要は以下の通りである。

項目	説明
開催日時	2019年10月16日(水) 9:30~18:30
場所・内容	開催場所： 山形県上山市 内 容： 山形県および上山市において老朽化対策を実施した二つの橋梁について勉強し、その後二つの橋梁を視察した。 スケジュール： 9:30~12:00 仙台駅前 集合 ~ バスで上山市へ移動 13:00~13:30 山形県橋梁長寿命化修繕計画の現状と課題 13:30~13:50 DBMY (山形県道路橋梁メンテナンス統合データベースシステム) の開発と運用について 13:50~14:10 PC 橋の劣化対策 (前川新橋) について 14:10~14:25 プレキャスト RC 床板 (赤山橋) について 14:25~14:35 プレキャスト RC 床板 (赤山橋) の試験結果について 15:00~15:20 前川新橋 (上山市石崎1丁目) 視察 15:40~16:20 赤山橋 (上山市榎下) 視察 16:30~18:30 バスで仙台駅前へ移動 ~ 解散
参加者	参加人数 28 名 + 委員 6 名

研修当日の様子



(4) 講習会運営委員会

1) 講習会・試験

講習会・試験の事務運営は、コンクリート診断士試験については JCI 支部事務局と宮城県生コン工業組合と共同で行い、コンクリート技士・主任技士試験は生コン工業組合主体で実施した。

2019 年度 講習会・試験実施状況(JCI 東北支部管轄)

名称	日時	会場	管理者	運営分担
コンクリート 診断士講習会	4月23日(火) 4月24日(水)	仙台国際センター	統括：堀 則男 (1年目)	JCI 東北支部・ 生コン工組共同運営 責任者：中條 清 補佐：眞山芳恵
コンクリート 診断士試験	7月21日(日)	東北学院大学 (土樋キャンパス)		JCI 東北支部・ 生コン工組共同運営 責任者：中條 清 補佐：眞山芳恵

2019 年度 試験実施状況(JCI 本部管轄)

コンクリート 技士試験・ コンクリート 主任技士試験	11月24日(日)	東北学院大学 (土樋キャンパス)	統括：船木 尚己 (2年目) 補佐：内藤 英樹	生コン工組運営 責任者：中條 清 補佐：眞山芳恵
-------------------------------------	-----------	---------------------	-------------------------------	--------------------------------

(5) ホームページ運用委員会

会員・非会員向けの支部活動の情報を発信するため、講習会・各種試験・勉強会などの情報について随時ウェブサイトに掲載を行った。また6月と12月の年2回、HP全体について未更新の情報がないかチェックを行った。

また、年次大会2017年の参加委員を元に作成した支部メーリングリストを支部活動の周知に活用した。

3. 収支決算報告 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)

JCI東北支部 令和元年(2019年)度収支実績

(単位:円)

勘定科目	R01実績計 A	R01予算 B	差異 C=B-A	備考
I. 収益(収入)の部				
(1) 事業収益				
講演会等収益(見学会含む)	57,000	135,000	78,000	診断士技術研鑽のための勉強会
本部よりの業務援助報酬(診断士)	593,200	600,000	6,800	診断士試験・講習会の援助報酬
事業収益計	650,200	735,000	84,800	
(2) その他収益				
受取利息	39	100	61	
懇親会参加費収益	75,000	50,000	-25,000	
雑収益	3,370	0	-3,370	
本部よりの年次大会還元金		0	0	
本部よりの支部交付金	1,567,120	1,600,000	32,880	
その他収益計	1,645,529	1,650,100	4,571	
合計	2,295,729	2,385,100	89,371	
2. 費用の部				
(1) 事業費				
(1-1) 公益目的事業費				
1) 調査研究事業費	314,290	600,000	285,710	
2) 広報事業費	13,676	15,000	1,324	東北支部ホームページレンタル代金
3) 講演会等事業費(見学会含む)	205,050	300,000	94,950	診断士技術研鑽のための勉強会
4) 表彰事業費	56,700	100,000	43,300	
(1-2) 収益事業費				
2) 業務委託費(診断士業務)	474,560	480,000	5,440	報酬の80%を宮城工組へ
(1-3) その他費用 *1	0	0	0	
事業費計	1,064,276	1,495,000	430,724	
(2) 管理費(法人会計)				
1) 総会費	490,762	350,000	-140,762	
2) 役員会費	116,064	100,000	-16,064	
3) 業務委託費(支部業務)	528,000	518,400	-9,600	
5) 旅費交通費	344,140	300,000	-44,140	
6) 通信費	2,690	10,000	7,310	
7) 消耗品費	0	1,000	1,000	
11) 手数料	5,328	10,000	4,672	
12) その他雑費 *2	0		0	
管理費計	1,486,984	1,289,400	-197,584	
合計	2,551,260	2,784,400	233,140	
収支差額	-255,531	-399,300	-143,769	
前期繰越収支差額	3,511,143	—	—	平成30年度から令和元年度への繰越
次期繰越収支差額	3,255,612	—	—	令和元年度から令和2年度への繰越

4. 内部監査報告

内部監査報告書		提出日 2020年4月27日
監査実施日 監査場所 監査概要	2020年4月27日(月) 14:00~15:00 日本コンクリート工学会東北支部事務局 2019年度(2019年4月~2020年3月)の期間における日本コンクリート工学会東北支部の活動結果に対して、会計処理および業務遂行の適正性の監査を目的として、以下2項目について内部監査を実施した。	
監査項目	(1)会計監査 (2)業務監査 公益社団法人日本コンクリート工学会「支部に係わる内部監査規定」および(一社)日本内部監査協会の「内部監査基準実践要綱」に定める主な項目について監査した。	
監査実施者氏名	日本コンクリート工学会東北支部 検査役 千葉 博英	
被監査者氏名	日本コンクリート工学会東北支部 出納管理者 金 貴之	
(1)会計監査結果	会計処理が適正に実施されているかを監査するため、以下の項目について出納簿、記録簿、預金通帳類を閲覧、照合し、かつ出納管理者にもヒアリングを行った。それらの結果、 ①2020年3月31日付けでの現金残高が0円で、支部預金口座に全て入金されていることを確認した。 ②2020年4月1日から4月27日(監査当日)までの現金残高を実査し、出納簿および現金出納簿と合致していることを確認した。 ③出納簿と預金引出し記録および収入記録を照合し、全て合致していることを確認した。 ④支出金額、目的、領収書類を照合し、全て合致していることを確認した。 ⑤支部保有の預金通帳とその口座の印鑑が施錠設備を有する保管庫で厳重に保管されていることを確認した。 ⑥ ①から⑤までの監査結果より、支部会計は全て適正に処理されていることが確認できた。	
(2)業務監査結果	支部活動が適正に実施されているかを監査するため、支部規定および関連する規定類の内容確認と、以下の項目について出納管理者に活動状況をヒアリングした。それらの結果、 ①本部から指示された支部規定が、東北支部規定として2016年5月13日に開催された支部総会にて承認決議されて、それまでの支部規定は廃止され、新たな支部規定が施行されていることが確認された。 ②その他の東北支部独自の規定類として、「表彰規定」のみが存在することが確認された。 ③対象期間における、新たな契約の開始、廃止は認められなかった。 ④事務局委託業務を担う職員以外の雇用者は存在しないことが確認された。 ⑤支部印と支部長印が施錠設備を有する保管庫で厳重に保管されていることを確認した。また、押印が押印管理簿で適正に管理されていることを確認した。 ⑥ ①から⑤までの監査結果より、支部業務は全て適正に実施されていることが確認できた。	
総評	2019年度の東北支部の会計処理および活動状況について監査を行った結果、いずれも適正に処理されていることが確認できた。	
	不適正処理事項 0件	改善提案事項 0件
不適正処理事項	特になし	
改善提案事項	特になし	
以上の監査結果に相違ありません。 2020年4月27日 日本コンクリート工学会東北支部 検査役 千葉 博英		



Ⅱ 令和2年度(2020年度)事業計画及び収支予算計画

(自2020年4月1日 至2021年3月31日)

1. 会務運営

(1) 総会

・2020年5月20日(水) 15:00～17:00 於：仙台サンプラザ(中止)

(2) 支部幹事会

・2020年5月20日(水) 13:00～14:30 於：仙台サンプラザ ※役員会を兼ねる(中止)

(3) 支部役員会

・2019年5月20日(水) 13:00～14:30 於：仙台サンプラザ(中止)
他年3回開催予定

(4) 研究委員会

・随時電子会議により開催

(5) 表彰委員会

・随時電子会議により開催

(6) 研修委員会

・随時電子会議により開催

(7) 講習会運営委員会

・随時電子会議により開催

(8) ホームページ運用委員会

・随時電子会議により開催

3. 委員会活動

(1) 研究委員会

専門研究委員会への申請と承認が行われた4つの新規研究委員会が活動を行う。また2020年度も継続して新規研究課題を公募する。

また、2020年3月まで活動した「東北地方のコンクリート構造物の品質・耐久性確保に関する調査研究委員会」(第1期)の成果をとりまとめ、東北6県を対象とした講習会を行う。

新規課題(役員会での審議を経て、活動期間を前倒しし、2020年1月より活動)

1) フライアッシュおよびもみ殻灰のコンクリートへの有効利用に関する研究委員会

活動期間：2020年1月～2022年3月 委員長：徳重英信(秋田大学)

2) 表層品質評価委員会

活動期間：2020年1月～2022年3月 委員長：武田三弘(東北学院大学)

3) コンクリートの施工の良否が材料劣化に及ぼす影響に関する調査研究委員会

活動期間：2020年1月～2022年3月 委員長：子田康弘(日本大学)

4) 東北地方のコンクリート構造物の品質・耐久性確保に関する調査研究委員会(第2期)

活動期間：2020年1月～2022年3月 委員長：小山田哲也(岩手大学)

(2) 表彰委員会

日本コンクリート工学会東北支部表彰規約(内規)に基づき、論文賞・技術賞・功労賞・奨励賞・作品賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員に対して表彰する。

(3) 研修委員会

第16回『コンクリート診断技術研鑽のための勉強会』の開催を検討する。

- ・ワーキンググループの開催

(4) 講習会運営委員会

講習会・試験の事務運営は、コンクリート診断士試験についてはJCI支部事務局と宮城県生コン工業組合と共同で行い、コンクリート技士関連は生コン工業組合にお願いする。また、月刊誌「コンクリート工学」への執筆推薦に協力する。

2020年度 講習会・試験実施予定(JCI 東北支部管轄)

名称	日時	会場	管理者	運営分担
コンクリート診断士講習会	2020年度よりeラーニングによる受講に変更			
コンクリート診断士試験	7月19日(日) (見送り)		統括：堀 則男 (2年目)	JCI 東北支部・ 生コン工組共同運営 責任者：中條 清 補佐：眞山芳恵

2020年度 試験実施予定(JCI 本部管轄)

コンクリート技士試験・ コンクリート主任技士試験	11月22日(日)		統括：内藤 英樹 (1年目) 補佐：	生コン工組運営 責任者：中條 清 補佐：眞山芳恵
-----------------------------	-----------	--	--------------------------	--------------------------------

(5) ホームページ運用委員会

会員・非会員向けの支部活動の情報を発信するため、講習会・各種試験・勉強会などの情報について随時ウェブサイトに掲載を行う。また6月と12月の年2回、HP全体について未更新の情報がないかチェックを行う。

また、年次大会2017年の参加委員を元に作成した支部メーリングリストを支部活動の周知に活用する。

(6) 震災後10年を節目としたイベント（シンポジウム等）の準備委員会

2021年度に震災後10年を節目としたイベントを開催するため、その準備を行う。

3. 2020年度 収支予算計画 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)

JCI東北支部 令和2年(2020年)度収支予算計画

(単位:円)

勘定科目	R02予算 A	R01予算 B	R01実績	差異 C=A-B	備考
I. 収益(収入)の部					
(1)事業収益					
講演会等収益(見学会含む)	1,695,000	135,000	57,000	1,560,000	診断士技術研鑽のための勉強会 および 品質確保委員会講習会(6会場見込み)
本部よりの業務援助報酬(診断士)	300,000	600,000	593,200	-300,000	診断士試験がeラーニングになる事を考慮し、減額
事業収益計	1,995,000	735,000	650,200	1,260,000	
(2)その他収益					
受取利息		100	39	-100	
懇親会参加費収益	50,000	50,000	75,000	0	
雑収益	0	0	3,370	0	
本部よりの年次大会還元金	0	0	0	0	
本部よりの支部交付金	1,550,000	1,600,000	1,567,120	-50,000	
その他収益計	1,600,000	1,650,100	1,645,529	-50,100	
合計	3,595,000	2,385,100	2,295,729	1,209,900	
2. 費用の部					
(1)事業費					
(1-1)公益目的事業費					
1)調査研究事業費	900,000	600,000	314,290	300,000	年次大会還元金を調査研究に活用
2)広報事業費	15,000	15,000	13,676	0	
3)講演会等事業費(見学会含む)	1,900,000	300,000	205,050	1,600,000	一昨年を参考に設定
4)表彰事業費	100,000	100,000	56,700	0	
(1-2)収益事業費					
2)業務委託費(診断士業務)	240,000	480,000	474,560	-240,000	報酬の80%を宮城工組へ
(1-3)その他費用 *1	0	0	0	0	
事業費計	3,155,000	1,495,000	1,064,276	1,660,000	
(2)管理費(法人会計)					
1)総会費	350,000	350,000	490,762	0	
2)役員会費	450,000	100,000	116,064	350,000	役員会の交通費に関しては、役員会費に計上
3)業務委託費(支部業務)	518,400	518,400	528,000	0	
5)旅費交通費		300,000	344,140	-300,000	
6)通信費	5,000	10,000	2,690	-5,000	
7)消耗品費	0	1,000	0	-1,000	
11)手数料	10,000	10,000	5,328	0	
12)その他雑費 *2	0	0	0	0	
管理費計	1,333,400	1,289,400	1,486,984	44,000	
合計	4,488,400	2,784,400	2,551,260	1,704,000	
収支差額	-893,400	-399,300	-255,531	-494,100	
前期繰越収支差額	3,255,612	—	3,511,143	—	令和元年度から令和2年度への繰越
次期繰越収支差額	2,362,212	—	3,255,612	—	令和2年度から令和3年度への繰越

Ⅲ 補足資料

令和2年度 J C I 東北支部役員 名簿

令和2年4月1日より

氏名	勤務先	
支部長		1名
岩城 一郎	日本大学 工学部 土木工学科 教授	
副支部長		1名
奈良 裕	青森県コンクリート診断士会	
支部幹事		11名
阿波 稔	八戸工業大学 工学部 土木建築工学科 教授	
小山田哲也	岩手大学理工学部 システム創成工学科 社会基盤・環境コース 准教授	
武田 三弘	東北学院大学 工学部 環境建設工学科 教授	
徳重 英信	秋田大学 大学院理工学研究科 教授	
新沼 文敏	宮城県生コンクリート工業組合	
西尾 崇	国土交通省東北地方整備局 企画部長	
西脇 智哉	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 准教授	
久田 真	東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻 教授	
堀 則男	東北工業大学 建築学部建築学科 教授	
堀江 仁	東北電力(株) 土木建築部	
西村 元男	鹿島建設(株) 東北支店	
支部執行委員		19名
石橋 努	(株)復建技術コンサルタント	
磯上 秀一	福島県生コンクリート工業組合	
折原 清告	山形県生コンクリート工業組合	
上原子 晶久	弘前大学 理工学部 地球環境学科	
菅野 秀人	秋田県立大学 システム科学技術学部建築環境システム学科 准教授	
北辻 政文	宮城大学 食産業学部 環境システム学科 教授	
小出 英夫	東北工業大学 工学部 都市マネジメント学科 教授	
子田 康弘	日本大学 工学部 土木工学科	
権代 由範	仙台高等専門学校 総合工学科 准教授	
近藤 克巳	清水建設(株) 東北支店 土木技術部	
佐藤 昭市	青森県生コンクリート工業組合	
澤田 浩昭	オリエンタル白石(株) 東北支店 技術部	
内藤 英樹	東北大学 大学院工学研究科 土木工学専攻	
袴田 豊	岩手県生コンクリート工業組合	
橋本 幸一	秋田県生コンクリート工業組合	
樋本 智	東日本高速道路(株) 東北支社 技術部	
緑川 猛彦	福島工業高等専門学校 建設環境工学科	
皆川 浩	東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻 准教授	
渡邊 弘子	月の泉技術士事務所	
検査役		1名
千葉 博英	宇部三菱セメント株式会社	
本部理事		1名
岩城 一郎	日本大学 工学部 土木工学科 教授	
顧問		10名
井上 範夫	東北大学 名誉教授	
大塚 浩司	東北学院大学 名誉教授	
田中 礼治	東北工業大学 名誉教授	
三浦 尚	東北大学 名誉教授	
三橋 博三	東北大学 名誉教授	
鈴木 基行	東北大学 名誉教授	
月永 洋一	八戸工業大学工学部土木建築工学科 教授	
遠藤 孝夫	東北学院大学 名誉教授	
前田 匡樹	東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻 教授	
石川 雅美	東北学院大学 工学部 環境建設工学科 教授	
事務局		
飯土井 剛	(株)復建技術コンサルタント 構造技術部	
鈴木 秀寿	(株)復建技術コンサルタント 構造技術部	
金 貴之	(株)復建技術コンサルタント 総務人事部	

※：役割変更 新：新役員 交：異動等により交代

令和2年度 JCI東北支部専門委員会委員名簿

令和2年4月1日より

専門委員会	研究委員会		研修委員会		表彰委員会	
委員長		久田 真		阿波 稔		武田 三弘
副委員長				奈良 裕		西脇 智哉
委員		阿波 稔		新沼 文敏		小山田哲也
		武田 三弘		袴田 豊		上原子 晶久
				磯上 秀一		菅野 秀人
				橋本 幸一		小出 英夫
				折原 清告		子田 康弘
				近藤 克巳		権代 由範
				千葉 博英		近藤 克巳
						徳重 英信
						西村 元男
						堀江 仁
						緑川 猛彦

専門委員会	講習会運営委員会		HP運用委員会		支部執行部候補者推薦委員会	
委員長		堀 則男		西脇 智哉		
副委員長		新沼 文敏				
委員		北辻 政文		金 貴之		
				宮本 慎太郎		